



東アジアの持続可能な将来に貢献する目的で訪問
グンナル・ブルンディーン氏 (Gunnar Brundin)
日本と中国
2008年3月

主催: 持続可能なスウェーデン協会

スウェーデンにおける背景

スウェーデンエコ自治体協会 (The National Association of Swedish Eco-Municipalities、SEKOM) はスウェーデンの自治体の約4分の1に昇る71の会員自治体をもつ。「エコ自治体」とは、政治レベルで共通の枠組みの中で、持続可能性の意味に関する共通の概念をもち、持続可能な発展に向けて努力をすることにコミットしている自治体のことをさす。

2008年5月27日-29日、スウェーデンエコ自治体協会が主催する初めてのエコ自治体国際会議がスウェーデン、ヘルシングボリ市 (Helsingborg) で開かれる。

2007年1月、スウェーデンエコ自治体協会のラーシュ・テューンベリ (Lars Thunberg) 会長を含む4人が来日し、日本の地方自治体を国際会議に誘い、ほかの自治体と一緒に持続可能な将来に向けて共に取り組むようと呼びかけた。4人の一人、トルビョーン・ラーティ (Torbjörn Lahti) 氏は、1980年代のエコ自治体運動の初期のベテランでエコ自治体の概念と手法を開発した中心人物の一人である。ラーティ氏はエコ自治体運動についての本を共著し、その本は日本語に訳され2006年に日本で出版された。彼らの来日もラーティ氏の本も好評だった。

2008年3月に来日する予定のグンナル・ブルンディーン (Gunnar Brundin) 氏は、エコ自治体運動の始まりからラーティ氏と一緒に活動してきた。二人は一緒に、ブルンディーン氏が現在社長を務めるコンサルタント会社、エーサム株式会社を設立した。ラーティ氏は持続可能なスウェーデン協会の会長であり、国際 NGO ナチュラル・ステップ・インターナショナルのシニアアドバイザーも務めている。同組織はエコ自治体協会とエーサム社と共に、同じ持続可能性の原則を共有している。4団体は密接な協力関係にある。ブルンディーン氏は持続可能なスウェーデン協会の創始者の一人で理事も務めている。

日本における背景

2008年7月、日本は G8 サミット議長国の役割を果たす。そこで環境と気候変動が議題のトップに上がるだろう。世界中の報道機関や市民団体が日本を注目することになり、来日する方も多いただろう。日本について何を知ることになるのだろうか？ 私たちの視点から見れば日本の多くの地方自治体が持続可能性の方向に進むために力を注いでいる。一部はまだ取り組みはじめていないかもしれない。しかし共通していることは、日本の持続可能性に向けた政策を前進させるのに重要な役割を果たすことができることである。また、持続可能性に向けた取り組みをしている自治



体ネットワークも存在する。そのひとつは環境自治体会議(The Coalition of Local Governments for Environment Initiative, COLGEI)といい、60の自治体がメンバーとなり、毎年全国会議を開催している。2008年の総会は、スウェーデンの自治体国際会議とほぼ同時期の5月28日-30日、山形県遊佐町で開催される。このように、日本には、注目すべき、励ますべき良いイニシアティブが数多く存在する。

2008年3月の訪問の狙い

- 日本

スウェーデンでは、自治体が政府よりも早く持続可能性に向かうことがよくある。アメリカでは似たように、地方自治体が連邦政府に比べてより熱心に進んでいる。日本も似たような傾向が見えるし、その傾向は拡大する可能性があるかと私たちは信じている。この発展を応援する方法の一つは、他国からインスピレーションを提供することである。もう一つの方法は、すでに活動中の良い事例に外国からの関心を示すことである。

グナル・ブルンディーン氏を日本に呼ぶ趣旨はここにある。スウェーデンで行われていることから学び、インスピレーションを受ける機会を日本の地方自治体に提供したいということ。また、すでに多くの取り組みをしている方に、同じような課題に長年取り組み、その課題を乗り越えて行く人々や自治体を支援してきた経験者と見解の交流をする機会を提供したいということである。

- 中国

持続可能なスウェーデン協会の中でグローバルな持続可能性のために一緒に取り組んでいる中で、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、日本でネットワークを広げて来た。この動きの中で、私たちが共有する将来に中国が重要な役割を果たしていることに気づいた。また中国は2008年8月、オリンピックの開催国としてスポットライトが当たる。このため、協力者になる可能性のある組織などを探りたい。

日本、中国、スウェーデンの3カ国はとても違った歴史的背景や多様な経験をもち、それぞれ違った視点からの問題に直面しているが、皆で共有している地球規模での明白な目標は、平和で、かつ持続可能な発展である。長年東アジアとスウェーデンの架け橋の役割を果たして来た私たちは、それぞれのネットワークにある原動力をつなげ、私たち全員が経験を分かち合い、学び合うよう励まし合いたい。そうすれば、持続可能な発展という共通の目標に向けての努力はさらに成功へと導くだろう！

レーナ・リンダール
(Lena Lindahl)
会員、日本代表
持続可能なスウェーデン協会

スティグ＝ヴァルテル・カールソン
(Stig Valter Karlsson)
創始者、理事
持続可能なスウェーデン協会

日本関連の連絡先: llindahl@igc.org

中国関連の連絡先: svk@algonet.se